

2

1 (1) **答え 1034**

4けたのいちばん小さい数は、千の位の数を1とし、残りの6枚のカードを数字の小さい順序で並べた数なので、1034となります。

これは偶数であるので、そのまま答えとしてよいことになります。

(2) **答え 9654**

4けたのいちばん大きい数は、7枚のカードを数字の大きい順序に並べた数なので、9654となります。

これは偶数なので、そのまま答えとしてよいことになります。

2 **答え (ア) × (イ) ○ (ウ) ○ (エ) × (オ) ×**

おび帯グラフにかかれてあることをていねいに読み取っていこう。

(ア) けがの種類は、「すりきず」「打ぼく」「切りきず」「ねんざ」の4種類のほかに、「その他」があるので、4種類とはいえません。

(イ) 東小学校では「すりきず」が40%で一番多く、西小学校では「すりきず」が43%で一番多い。よって、両方の学校とも一番多いけがはすりきずである、といえます。

(ウ) けがの数は、東小学校が60件、西小学校が100件なので、西小学校の方が多い。

(エ) 東小学校の切りきずの件数は、全体60件のうちの20%なので、

$$60 \times 0.2 = 12$$

西小学校の切りきずの件数は、全体100件のうちの16%なので、

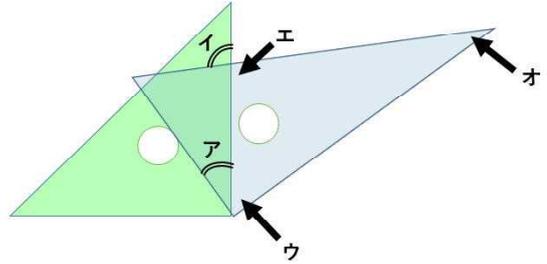
$$100 \times 0.16 = 16$$

西小学校の方が切りきずの件数が多いのでまちがいにあります。

(オ) どちらの小学校も打ぼくの割合は25%であるが、全体の件数が異なるので、打ぼくの件数は同じにはなりません。

3 答え 104°

右の図のように、角ウ、角エ、角オの3つの角を設けて、それぞれの角度を求めます。



角エは、2つの直線が交わってできた角なので、角イと角エの角度は同じになります。よって、角エの角度を求めればよいことになります。

角ウは、 $90 - 44 = 46$

角オは、直角三角形の三角定規なので、 30° です。

よって、角ウ、角エ、角オの3つの角からできる三角形の角の大きさの和は、 180° なので、

$$180 - (46 + 30) = 104$$

※角ウ、角エ、角オ以外の角に着目しても求めることができます。

4 答え アとオ

1よりも大きな数をかけると●よりも大きくなります。わり算については、かけ算に直して考えてみましょう。

5 答え 265356

$$\begin{array}{r}
 1 + \quad 2 + \quad 3 + \quad \dots + 727 + 728 \\
 728 + 727 + 726 + \quad \dots + \quad 2 + \quad 1 \\
 \hline
 729 + 729 + 729 + \quad \dots + 729 + 729 = 729 \times 728 \div 2 \\
 = 265356
 \end{array}$$